**令和６年度　第３回　ヨコハマ国際まちづくり推進委員会　会議録**

|  |  |
| --- | --- |
| 日時 | 令和７年３月13日（木）10時00分～11時30分 |
| 開催場所 | 市庁舎18階共用会議室　みなと４.５ |
| 出席者 | 小野﨑委員長、北川委員、鬼頭委員、木村委員、栗田委員、坪谷委員、福山委員、細谷委員、四元委員 |
| 欠席者 | バートン委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴者0人） |

議事（１）　令和７年度国際局予算概要について

【主な意見】

・最初の１ページの令和７年度国際局予算案総括表で全体的には予算が増えている中で、７ページの国際企画・

多文化共生推進費のうち国際交流協会補助金は前年度と比べて減っているということですか？

→７ページの部分につきましては、１ページの総括表にもありましたとおり、全体的には増えております。

ここには２番の外国人材受入・共生推進事業のところで４千万円程増えております。大きく増えているのがグ

ローバル人材育成事業で６千万円の増となっております。なお３番目の横浜国際交流協会の補助金につきまして

は、１千万円程減っているように見えますが光熱水費などを５ページの国際協力センター等事業の方に契約の関

係で移しているためであり、横浜市国際交流協会の補助金は減っているということはありません。

報告（１）　令和６年度国際局事業について

ア　横浜市地域日本語教育推進アクションプラン（2025-2029 年度）の策定について

【主な意見】

・横浜の日本語学習支援センターにかなり負荷がかかるように思いますが、実際、実施できるのでしょうか？

→この事業は文部科学省から補助金を受け、実施しており、アクションプランの作成については、YOKEが調査や作成の委託先となり、国際局・YOKEが一緒になって取り組んできました。

来年の１年間で全てが実施できるわけではないと思っており、段階を踏んで取り組んでいきます。

・アクションプラン作成に総合調整会議で委員の一人として参加させていただきました。

委員会はとても活発な意見交換が行われ、それをかなり取り入れていただいたと実感しています。良いプランができたなと思っています。

先日の会議でも少し話がでましたが、就学までの日本語教育の重要性があります。

自分の大学の学生がラウンジにボランティアでいった感想として、同じ年齢で、同じ年数、日本にいるのになじめている子となじめていない子がいますが、最近ラウンジに来た子、就学前からラウンジに来ていた子で違いがあるという発言がありました。就学前から学習することが大事である一方、心配なのは、発達に関しての知識がない状況で日本語を教えるとなると文化の押しつけになってしまう可能性があります。教育の専門家にかかわってもらう必要があるかと思います。

もう一点は担い手を育成することの重要性です。ボランティアには高齢者が多くいらっしゃいます。本当は大学生がボランティアに参加できればいいが、多忙であり難しいです。こんなに大事なことなのに、なんでお金が入っていないのでしょうか？ボランティアではなく、アルバイトだったらいいのにという意見が多数あります。

→就学前のプログラムについてはラウンジからもこどもの学習支援の大切さについてはご意見いただいているところです。国際局だけでは難しいと考えています。こども青少年局、教育委員会事務局と連携して取り組んでいきたいと思います。母語の大切さなどを含めて、どういった支援が必要か考えていきたいと思っています。

また、多くのボランティアの皆さまのご尽力で成り立っており、金銭面の支援がないことは市としても課題と認識しているところです。国要望においても、他自治体と連携しながら、しっかりと財源確保をしてほしいということをこれまでも訴えているところで、引き続き国にもしっかり伝えていきたいと思います。

・大学で、学生の教室への派遣を行っています。ボランティアに行くと学びが多くあります。

研究論文に繋げたり、今年の事例でいいますと、在留管理庁に就職したり、日本語教育の専門的な研究をしたいと大学院に進んだりする学生がいました。勉強するだけでは得られない貴重な学びの機会を提供していただいています。

担い手も高齢化が進んでいるという話がありましたが、どこでもボランティアに行けばいいというわけではなく、横浜市だから、歴史があり文化背景を知っている大人がいます。そのような人たちによって、多文化共生が支えられてきています。そういう人たちと出会うということが若い人たちにとって、得難い学びの場になっていると考えています。グローバル人材育成事業で海外留学を支援することも大事な事業である一方で、市内でもこういった場で学べることがたくさんあると思います。横浜市内の在住外国人との出会いも学びになります。横浜の人材を育てることにもつながると思います。プランには、「大学生のボランティアの参加促進」と記載してあるが、次世代育成の取組として検討いただきたいです。また、ボランティアへの交通費、アルバイト代となると教育委員会になると思いますが、対応していただきたいです。ボランティアベースで長い間、支えてきているおかしな状況となっており、ボランティアベースだけでは続かないと思うので、対策が必要です。ぜひご検討をお願いしたいです。

→最近は大学のサポートで大学生の参加も増えてきています。

学生が、日本に住んでいる外国人に触れることで、日本に住んでいる外国人の実態を生で感じる貴重な機会であります。学生ボランティアを受入れてくれているボランティア教室の理解あってのものと考えています。市としても現場をしっかりと支えられるように、幅広い支援を考えていく必要があると考えています。

・大学生がボランティアで入ることは無理があると思っています。教育はボランティアであるという考えでは成り立たない。経験としてすごくいいことがいっぱいあると思いますが、その経験を活かそうと思った人にはいいですが、それ以外の人は難しいと思います。

これだけ外国につながるこどもが横浜市内にいる中では、教員採用のときにボランティア教室で日本語を教えた経歴を評価できる仕組みがあるといいです。理想だけ語ってもなかなか教員になる人はいません。現在、全国の学校で、部活動の地域移行という課題に直面していますが、ボランティアではやはり無理があります。

・学生ボランティアには教員を希望している人がたくさんいます。こういう活動をした学生に証明書を出してもらうとか、面接のときに有利になる、など、ボランティアが評価される採用試験となればモチベーションがあがり、ボランティアを行う学生も増えると思います。

・金沢区にも２つ大学があります。区役所を通して大学へボランティアの募集を呼び掛けています。ラウンジに来てくれた大学生に何ができるか確認し、日本語を教えるだけでなくできることをやってもらっています。

ラウンジは来てくれた大学生の受け入れ体制をつくっていきたいと思います。見学の機会を設けるなど、大学生に来てもらいやすい取り組みをしていきたいと思っています。

・施策の方向性の取組はその通りです。これまでYOKEが取り組んできたことも不足している部分があると思っています。アクションプランについては、今、やっていることも多いと思います。アクションプランは、今、こういう状態だから、５年後はこういう状態になっていたいと掲げるものだと思います。そういった目標についての議論はあったのでしょうか？

→プラン本文の中で、これまでの取組の成果や課題をそれぞれ記載しています。その課題の整理と、実態調査の結果を踏まえたうえで、プランを作成してきた形になります。引き続き次年度から５年間、総合調整会議の中で、目標にそった取組ができているか、費用対効果も踏まえ、今後どのような取組が必要かについて検証していきます。

・こども青少年局や教育委員会事務局とはこのアクションプランを作成するにあたり連携されましたか？

→総合調整会議は教育委員会事務局が委員として参加しています。こども青少年局はメンバーになっていませんが、適時相談をしながら進めてきました。こども調査の実施にあたっては、アンケート項目にも意見をもらいました。

イ　世界を目指す若者応援事業について

【主な意見】

・支援を受け留学に行き、帰国した方は、報告会に参加するだけですか？

→留学前説明会（海外で横浜をアピールしてもらうために、横浜市にまつわることについて学んでもらう）

帰国者懇談会（留学の振り返り）

アジア・スマートシティ会議など市主催の国際会議へのボランティア参加

留学報告会

情報発信（ウェブページでの留学の魅力を発信する取組への協力）

・留学に行くにあたって個人的に得るものが多いので、個人だけにとどめるのはもったいないと思います。

帰国した際には、市主催の国際会議にとどまらず、自分のいる学校への還元などもしてほしい。まわりの学生にも影響をあたえていただき、波及効果が広がっていけるといいと思います。

ウ　国際技術協力事業について

【主な意見】

特になし

報告（２）　令和７年度 第14 回アジア・スマートシティ会議について

【主な意見】

特になし

その他参考資料について

【主な意見】

・資料8多文化共生市民活動支援補助金について

令和７年度も規模は変わらず実施しますか？

→令和７年度は少し予算規模は少なくなるかもしれませんが、令和６年度と同じ形で継続して実施していく予定です。

資料

資料１　委員名簿

資料２　令和７年度国際局予算概要

資料３-１　横浜市地域日本語教育推進アクションプラン(案)【概要版】

資料３-２　横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくりに係る実態調査報告書（案）【概要版】

資料３-３　横浜市地域日本語教育推進アクションプラン（案）【本文】

資料４-１　【記者発表資料】「高校生の海外留学支援事業対象の団体・個人を決定しました！

～令和６年度『横浜市 世界を目指す若者応援事業』審査結果～」

資料４-２　【記者発表資料】令和６年度留学報告会の実施について

資料４-３　令和７年度世界を目指す若者応援事業制度概要について

資料５　国際技術協力事業（Y-PORT 事業）について

資料６　【記者発表資料】令和６年度横浜市外国人意識調査の実施状況について

　　別添　令和６年度横浜市外国人意識調査の実施状況について（報告書）

資料７-１　【記者発表資料】令和６年度横浜市多文化共生セミナーについて

資料７-２　令和６年度横浜市多文化共生セミナーについて（横浜市庁内報令和7 年度1 月号）

資料８　【記者発表資料】横浜市多文化共生市民活動支援補助事業について

資料９　第14 回アジア・スマートシティ会議について

特記事項

・令和７年度第１回ヨコハマ国際まちづくり推進委員会は６月上旬頃開催予定